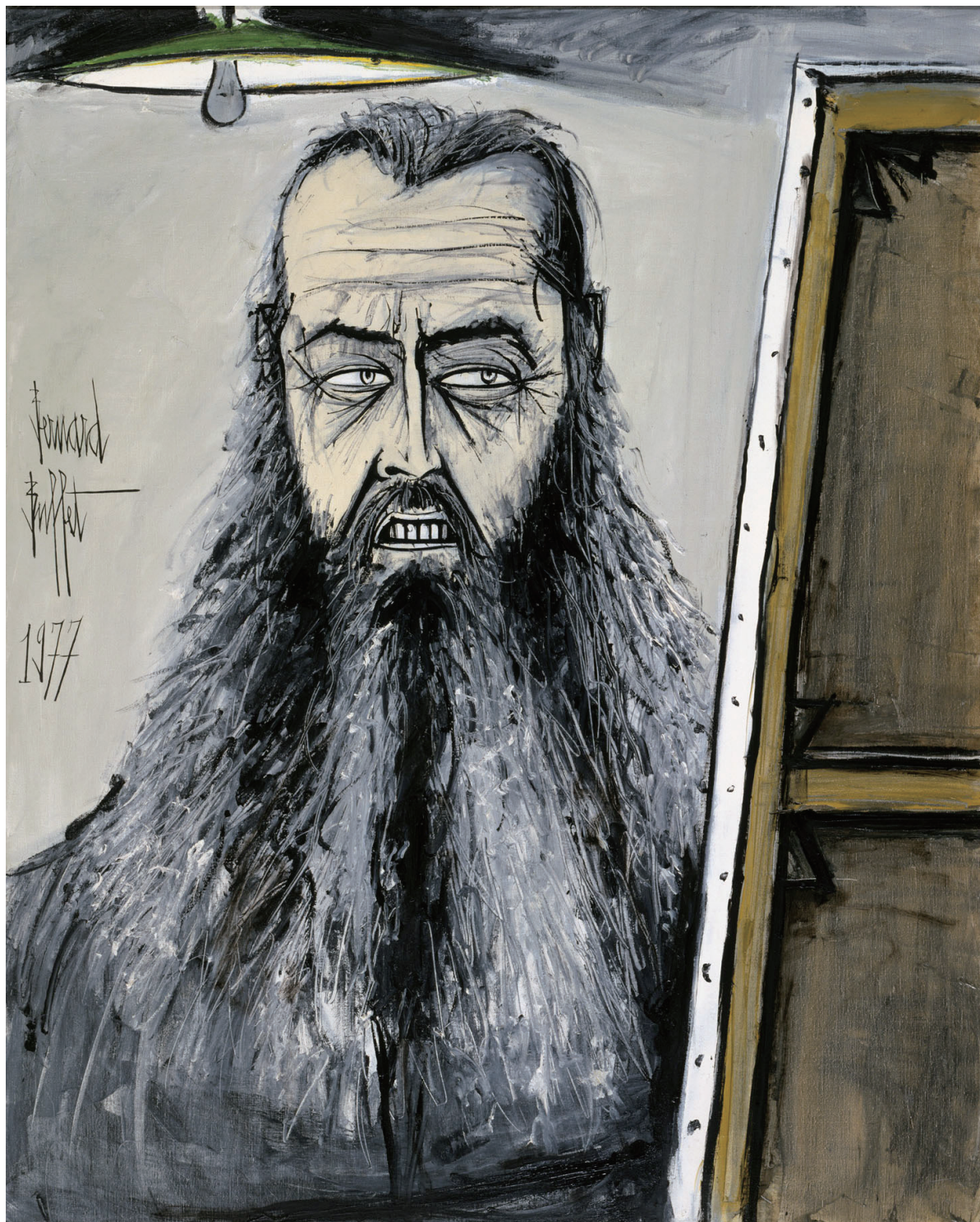


わたしの世界はわたしが創る



# 純粹を 追い求めて

ビュフェの進化の軌跡をたどる

BERNARD BUFFET

ベルナール・ビュフェ美術館

2024 **12.2** [月]

2025 **3.30** [日]

12月～2月 開館時間：10:00-16:30、3月 開館時間：10:00-17:00 ＊入館は閉館の30分前まで 休館日：水・木曜日（祝・休日の場合は開館し、翌金曜日を休館）、年始年末（12月25日-1月3日）  
＊開館情報は公式サイトでご確認ください 入館料：大人1,300円（1,200円）／高・大生650円（550円）／中学生以下無料 ＊（ ）内は20名様以上の団体割引 主催：ベルナール・ビュフェ美術館



# 純粹を追い求めて ——— ビュフェの進化の軌跡をたどる

ベルナール・ビュフェ（1928-1999）は、10代後半から画家として頭角をあらわし、20歳で批評家賞を受賞するなど、若くしてフランス美術界の寵児となりました。強く鋭い描線や抑制のきいた色調は、ビュフェならではの作風として称賛されました。しかしその一方で、明るい色を用いた室内画や静物画も制作するようになり、一つの枠に収まりきれない芸術を自由に展開しました。

本展では、章ごとにビュフェにとって転機となった年をとりあげ、各時期の表現の広がりを見ていきます。また1952年から毎年パリで開催したテーマ展にも注目し、主題やモチーフの変遷もたどります。ビュフェはテーマをつねに変えていましたが、それでも彼の芸術には通底するものを見て取ることができます。生涯を通じて「純粹」に描くことを追求したビュフェ。彼が追い求めた造形世界を、約80点の作品で探っていきます。

## BERNARD BUFFET

Bernard Buffet chez Constant, rue de Seine en 1948./© Donation Denise Colomb, Ministère de la Culture(France), Médiathèque du patrimoine et de la photographie, diffusion RMN-GP



《温室の中の若い女性》1988年 静岡新聞社



《二羽の鶏》1948年 静岡新聞社



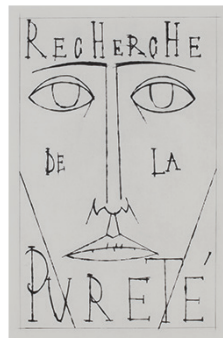
《コトドリのある静物》1952年 静岡新聞社



《ラ・ボームのホール》1987年 静岡新聞社



《道》1952年 静岡新聞社



《純粹の探究》1953年



《オランウータン》1997年

### ◆ギャラリートーク

学芸員が展示について解説します。

12/14(土)、1/11(土)、2/8(土)、3/8(土) いずれも14:00から、展示室にて。

※予約不要。入館券が必要です。

### ◆アクセス

#### 自動車の場合

新東名・長泉沼津I.C.または東名・沼津I.C. → 伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路）→ 長泉I.C.出口/R246を右折/「城山」交差点左折/静岡がんセンター方面へ（新東名長泉沼津I.C.より約5km）



#### 電車の場合

JR東海道線[三島駅]下車 南口より富士急シティバス駿河平方面行（運行本数に限りがあります。詳細は公式サイトをご覧ください）

※記載のない作品はすべてベルナール・ビュフェ美術館

## ベルナール・ビュフェ美術館

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘515-57  
Tel. 055-986-1300 Fax 055-987-5511 www.buffet-museum.jp